



南部町立南部中学校 学校だより 第11号

千一ム南部中

令和4年9月12日(月)
校長 望月和彦

輝城祭に向けて 生徒たちの熱いエネルギー

「Change」をテーマにした第12回輝城祭まで残り5日となり、輝城祭に向けた生徒たちの熱いエネルギーが、校舎に充満しています。今年度も3年生が「ソーラン節」で、オープニングを飾ることになっています。演目は同じソーラン節でも、その年、その年で「声の迫力」「顔の表情」「全員の同調性」「指先、足先」など細かな部分で味わいが異なります。今年のソーラン節はどんな味付けになるのか今からとても楽しみです。



各学年は、今年度も演劇に取り組んでいます。1学期末から台本、キャスト、スタッフを決め、夏休み中は読み合わせ、立ち稽古などを行い、先週からは本番の舞台である体育館のステージを使つての舞台稽古にも取り組んでいます。大道具・小道具や音響担当などの生徒は、道具類、舞台装置、背景画を製作したり、それぞれの場面にあった効果音やBGMを選んだり、みんなで一つの作品を創り上げる喜びを感じているようです。



9月8日と12日には、身延高校演劇部顧問の鈴木裕司先生が、各学年の演劇指導に来てくださいました。鈴木先生は、山梨県の高校演劇を代表する指導者で、身延高校演劇部は高校総合文化祭において毎年のように県大会で最優秀となり、関東大会や全国大会に出演しています。発声方法や体の使い方、顔の表情や動きのポイント、間の取り方、役者と役者の間の距離



感など細かな点について、丁寧に指導していただきました。各学年とも指導していただいた時間は合計2時間ほどでしたが、演技に磨きがかかるのを感じました。

輝城祭の部門活動の意義は、異なる学年の生徒たちが、文化、体育、全校制作、広報、展示装飾、美術文芸、吹奏楽、企画の8つの部門に分かれ、学年を越えて協力しながらそれぞれの部門の役割に取り組むところにあります。部門活動では3年生がリーダーシップを発揮し、1・2年生を指導しながらそれぞれの活動に取り組んでいます。生徒たちの自由な発想を大切に、生徒たちの主体性と自主性を育てる場になっています。美術文芸部と吹奏楽部の3年生にとっては、この輝城祭が最後の発表の場となります。1・2年生と心を合わせて3年間の部活動の成果を思う存分発揮してもらいたいです。



学級では、体育部門の練習が熱を帯びています。体育部門の種目は、長縄を使った「8の字跳び」、竹の棒を敵チームと取り合う「棒取り」、竹の棒を3人1組で運ぶ「台風の目」、馬になった仲間の背中を走る「背中渡り」、赤白に分か



れた縦割り4チームで戦う「縦割りリレー」です。これらの種目は運動能力も大切ですが、作戦やチームワークが勝敗を分ける大きな要素になります。朝夕の学級の時間を使って、グラウンドで繰り返し練習したり、輪になって作戦を考えたり、こうした活動を通して学級の団結力

が高まっています。また、学級のシンボルである「学級旗」も、それぞれの思いの詰まった素敵な旗が完成しつつあります。

生徒たちの熱意を感じてか、新型コロナウイルスの状況もここ数週間は改善傾向にあり、気候も朝夕は大分過ごしやすくなってきたように感じます。各家庭お一人だけの参観になりますが、生徒たちの南部中魂と若さに溢れるエネルギーを是非ご覧になっていただきたいと思います。（9月6日付けの保護者宛文書で来校方法、参観時間等をご確認ください。）

中学生交通安全・防犯弁論大会

9月2日（金）に南部警察署・南部交通安全協会・山梨県防犯協会南部支部主催の「南部警察署管内中学生交通安全・防犯弁論大会」が本校体育館において開催されました。身延中・早川中と本校から代表者10名の生徒が交通安全と防犯を訴える弁論を発表しました。交通安全の部では、1年の佐々木絆那さんが、横断歩道で嫌な思いをした経験から、「義務」と「思いやり」という視点から自分にできる交通安全を心がけていきたいと訴えました。3年の草場珂奈さんは、家族が交通事故に遭いそうになったのを未然に防ぐことができた経験から、歩行者にも運転者にも思いやりの心を持ってもらうことの大切さを伝えました。防犯の部では、2年の瀧井ひなのさんが、インターネットやSNSの危険性について触れ、「デジタルデトックス」（デジタル機器の使用を自発的に控えること）の必要性について発表しました。3年の鈴木湊羅さんは、南部中では生徒が互いの良さを認め合えることがより良い学校につながると考え、生徒会目標を「自分と仲間の成長を喜び合える学校」に決め、「身につける力交流会」や「いじめについて考える会」を行っていることを紹介しました。4人とも、自分の考えを豊かな表現力で聞く人に伝えようとした立派な弁論でした。本校が会場だったので、本校の1年生が交通安全の部の弁論を、2年生が防犯の部の弁論を、聴衆として聴くことができました。各校代表者の堂々とした弁論は、本校1・2年生に大きな刺激を与えてくれました。審査の結果、3年の草場珂奈さんが見事最優秀賞となり、他の3名は努力賞となりました。珂奈さんは、10月27日に行われる県大会に南部署管内代表として出場します。

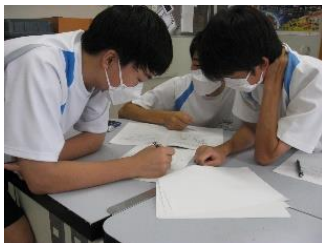


科学の甲子園ジュニア山梨県大会

この大会は、中学生に科学の楽しさや面白さを知ってもらい、科学と実生活や社会とのつながりに気付いて未知の分野に挑戦する探究心や創造性を高めてもらうことを目的として、山梨県教育委員会が主催した大会です。2年生の2チームがこの大会に出場しました。

<ニュートンチーム> 市川瑛士、田中海成、山本庚実
<アインシュタインチーム> 小池亜依、遠藤夏奈、若林美希

競技は筆記競技と実技競技があり、筆記競技は8月23日に本校で行われ、実技競技は8月27日に笛吹市の総合教育センターで行われました。2チームは入賞することはできませんでしたが、本校初の挑戦者として精一杯頑張りました。こうしたチャレンジがきっかけとなり、科学に対する興味や関心をより高めてもらえたら何よりです。



避難訓練&防災訓練

8月26日始業式の午後、今年度2回目の避難訓練を実施しました。前回と同じ大規模地震想定で避難訓練をしましたが、



それぞれの場所で適切に身を守る行動ができ、避難時間も速くなりました。避難訓練終了後に、防災倉庫の中にある防災機

材の使用訓練を行いました。本来なら南部エリア防災会の訓練として、本校に避難する地区の区長さんや代理者さんにも参加してもらう予定でしたが、コロナのために今回は3年生と教職員のみで実施しました。発電機、バルーン投光器、緊急用浄水装置、トリアージタグの4つの機材について、担当の教員が使用方法を説明したあと、生徒たちが実際に使ってみました。万が一の災害時に、中学生が地域の人々のために役に立てるための訓練です。

